

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(1/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
森林総合産業特区 (北海道下川町)	4.3	4.4 進捗度 ・素材供給量 96% ・林業・林産業 生産額 98% ・林業・林産業 従事者数 94% ・林道路網密度 101% ・熱エネルギー 自給率 100% ・電力エネルギー 一自給率 100%	3.7 規制の特例等 ・カタピラを有する 林業機械の舗 装道走行 財政支援等 ・高密度連絡道 路網整備事業 地域独自の取組 ・私有林整備支 援事業 ・林業・林産業 振興事業 ・地域材産業振 興資金利子補 給事業 等	4.5	・全体として、ほぼ順調な進捗度合いだと評価できよう。財政支援の積極的活用や、地域独自の取組についても、活発であると評価できる。 ・厳しい状況ながらも従事者が増加している。人材育成に力を入れている点は持続的な発展に繋がるものであり、注目される。林業の専門性を考えると人材確保には難しい面があろうが、道内高校森林科学科との連携に期待する。場合によっては外国人材の活用を検討されてはどうか。 ・公共施設の熱エネルギーの6割をバイオマスで賄うという驚くべき成果を挙げている。2019年度より稼動した北海道バイオマスエネルギーの発電事業により電力自給率がどこまで上がるのか、極めて期待が大きい。 ・経営の持続には、経営内部の合理化の他に、自らの努力によって展開できるのが需要の開拓であり、木材の多用途利用の促進に努めることが必要である。 ・SDGsと下川町の取り組みとは親和性が高い。下川町を1つのモデルとした場合、何が成功のためのポイントであり、何がハードルであったかを整理し、他地区へ情報提供を進めていくことが望まれる。総合特区からの卒業する日も近いように思う。